

福岡都市圏南部環境事業組合建設検討委員会
第5回経営手法専門部会 会議概要

一同を介しての会議が困難であったため、各委員の意見を聴取することで、部会開催に代えた。

1. 日 時	平成21年8月18日(火)～平成21年8月25日(火)
2. 議 題	(1) 議事 議題1 最終処分場におけるBOT方式の取り扱いについて 議題2 定性的評価について(その3) 議題3 総合評価に向けて(中間処理施設) 議題4 総合評価について(最終処分場)

(1) 議 事

議題1 最終処分場におけるBOT方式の取り扱いについて
【協議結果】 - 最終処分場におけるBOT方式は、検討の対象から除外することとする。 - 最終処分場におけるBOT方式のVFMは大きく出ない結果となっており、中間処理施設のBOT方式同様、本施設では一般廃棄物処理が主な業務であるため自由度が少なく、事業者が施設を所有させるメリットが少ないこと等の理由から、検討の対象から除外することとする。
議題2 定性的評価について(その3)
【協議結果】 - 新たな評価指針で評価を行ったが、それぞれの評価項目で優劣が出た。今後は、この定性的評価と定量的評価を総合的に評価していくこととする。 - 前回の部会での 「経済性」という評価指針とVFMの違いがわかりにくい。 「競争性」に関する標記があった方がよい。 との意見を踏まえ、新たな評価指針を 適正で安定的な処理・処分 信頼性と安全性の確保 エネルギーの効率化を含む環境への配慮(最終処分場を除く) 環境教育や啓発に向けた環境情報発信機能 競争性の確保 財政負担の平準化 として、評価を行った。 その結果、中間処理施設及び最終処分場とも、及び については従来型方式、・・・についてはDBO方式及びBTO方式、 についてはBTO方式が優位であるとの結論に至った。
議題3 総合評価に向けて(中間処理施設)
【協議結果】 - 中間処理施設の総合評価に向けては、行政的見地からの検討をするためにも、構成市町の意見も参考とする。 - 定量的評価では、VFMでDBO方式が最も優位であるが、定性的評価については、どの評価項目を重視するかで評価が異なるため、行政的見地からの検討を行うためにも、構成市町の意見も参考とする。

議題 4 総合評価について（最終処分場）

【協議結果】

- 最終処分場の事業方式については、従来型方式を採用することが望ましい。
- ・ 定量的評価でV F Mが出ておらず、定性的評価においても、D B O方式及びB T O方式がV F Mの差を埋めるほどのメリットがないことから、最終処分場の事業方式については従来型方式を採用することが望ましいとの結論に至った。